

「産業安全シリーズ講座2021」受講のお誘い

—産業安全が分かる心理臨床家の育成のために—

大学院連合メンタルヘルスセンター

三戸 秀樹

メンタルダウンしたクライアントに対して、クライアントの認知構造や行動の変容を期待しながらカウンセリング実施をしていることは多い。他方、労働現場では、労働者の認知構造や行動変容を期待しながら、安全行動へシフトするよう安全カウンセリングや安全指導をしている。

産業現場の実態が見えてくると、見過ごすことが出来ない重要な課題があることに気づき始める。労働事故死亡数に対して、メンタル系の災害死亡数の現実、労働事故死亡が、メンタル系災害死亡数の約1.2倍の多さであることに気づくはずだ。であれば、産業系における労働者への心理指導は、メンタル系に留まらないで、安全系への関与をもっともっとするべきだ。これまでの不関与は、①気づいていなかったこと、②安全や災害・事故に関する基礎知識を持っていないこと、以上2点から原因指摘をすることが出来よう。

1. 事故発生の過去歴史

- ・三井三池炭坑爆発事故、カネミ油症事故、イタイイタイ病、森永ヒ素ミルク事件、
- ・小林化工事件、国鉄の連続事故、信楽高原鉄道衝突事故、クボタ・ショック、
- ・あおり運転事故、航空機事故（ヒューマンファクター）、コンプライアンスの違反、

2. 情報処理研究から事故防止へ

- ・あいまい情報処理過程、労働と二重課題、ポピュレーション・ステレオタイプ、
- ・指差呼称法、配管識別、国際化とピクト整備、

3. 現状の安全問題

- ・クボタショックの例、スーパーにおける“切れ”、
- ・非正規労働（パート・アルバイト）と安全問題、医療事故、
- ・粉塵爆発の実態、プロパンガス爆発、カートリッジガス爆発、

4. いろいろな対策

- ・フェイル(フール)・セイフ、不安全行動の除去のために、
- ・安全対策、安全教育、交通事故防止、安全運転管理者制度、運行管理者制度、

(備考1) 開催回数は4回で、原則土曜日開催を予定しています。開催時期は、2021年度の上半期を予定しています。出席予約を入れて下さい。

(備考2) MHCの会員大学の学生諸君は、特別料金の割引があります。